

# 生田勉監督（硬式野球部）が退任

## 秋季リーグからは新体制

昨年の全日本大学野球選手権で20年ぶり5度目の優勝を果たした母校硬式野球部の生田勉監督が、6月14日に退任を発表しました。東都大学リーグ6連覇、全日本で1回、明治神宮大会で3回日本一に輝く偉業を達成していました。

生田監督は大分・柳ヶ浦高から母校に進学して捕手として活躍。卒業後はNTT東京でプレーしたあと平成4年（1992年）から母校のコーチに、平成16年（2004年）、監督に就任しました。以後、平成23年（2011年）の秋季リーグから平成26年（2014年）春季までの6季連続でのリーグ優勝を飾るというリーグ記録を樹立しました（リーグ優勝は全11回）。

愛情にあふれた厳しい指導とともに、野球人口の減少を憂いて野球の普及に尽力、数多くの野球教室を実施したのをはじめ夏には北海道釧路市での「タンチョウリーグ」を、2～3月には鹿児島での「おいどんカップ」を立ち上げていました。

退任にあたり「今年の春以降、体調が優れず、精神的にも体力的にも限界に近い状態で監督を続けて参りました。熟考した結果、春季リーグ戦終了をもって退任するのが野球部と部員にとって最善だと考え、監督退任を決意しました」とコメントしています。

秋季リーグからは新体制で臨むこととなりますが、母校では新たな指導体制は後日発表するとしています。